

本市産業の現状

- 最新の市内総生産額は3兆3,473億円（H30）
→ H26と比較して2,695億円（+8.8%）増加
- 市内事業所数は40,506事業所（R1）、従業者数は340,623人（H28）
→ H26と比較して3,425事業所（+9.2%）増加
2,467人（-0.7%）減少・横ばい
- 最新の製造品出荷額は2兆1,203億円（R1）で県内第1位
→ 約42%を電気機械器具製造業（エアコン、冷蔵庫、ヘッドライト等）が占める
→ H26と比較して3,619億円（+20.6%）増加
- ◇ 近年10年（2011-2020）の売上高は**市全体で107.2%**の伸び
・市の伸び率を超えた産業は
「運輸・通信業」121.1%（運輸のみ114.2%）
「建設業」119.0%「製造業」116.7%
「サービス業」114.5%
- ◇ コロナ禍での状況（2019-2020の売上高の比較）
・売上高が最も伸びた業種は「小売業」145.1%
・製造業のうち、「食料品製造業」は前年並だったが、「輸送用機械」「電気機械器具」「一般機械器具」「精密機械・医療器械器具」は前年割れ
※◇の出典：静岡市産業構造分析委託（R3実施）

第2次プランの成果と課題

【成果】

- 全体目標として掲げている、
・「市内総生産額」3兆2,140億円
・「市内従業員数」343,100人
については達成見込み
- 「本市の産業振興の3つの方向」として定めた
①戦略産業の振興
②戦略産業振興プラットフォームによる支援
③人材の確保・育成
に定める成果目標についても概ね達成見込み
（個別の取組内容については別紙のとおり）
- 具体的な事業については、「商工・物流」「観光・交流」「農林水産」の各分野別計画の政策・施策と紐づく形となっており、網羅的に位置付けての実施がされている

【課題】

- 目指す姿の明示がなく、構成が複雑で分かりにくい
- デジタル化や働き方など新型コロナウイルス感染症による新たな価値観など、日々変化する社会情勢に対処しにくい
- 本市を支える柱の一つであるものづくり産業への対応が薄い
- 起業、創業への更なる推進の必要性

第3次産業振興プランの考え方・視点等

プラン全体の考え方（案）

- ① 本市産業の**目指すべき将来像（2030年のあるべき姿）**を見据えて**取組の方向性（ビジョン）**を示すものとする。
- ② 個別施策については、第2次産業振興プランと同様、各個別計画に委ね、シンプルな計画とするが、毎年度に予算等を踏まえた「**実行計画**」を策定する。

策定に当たっての視点（案）

- ・ 中小企業・小規模企業振興条例の基本的施策「**人材の確保・育成**」「**生産性の向上**」「**創業・新規事業の創出**」の取組に重点を置いて推進する。
- ・ **脱炭素やデジタル化**など、大きな経済・社会の潮流を捉えた取組を推進する。
- ・ **持続可能な地域経済の構築**に向けた取組を推進する。
- ・ **コロナ禍での様々な課題・変化**に的確に対応する。
- ・ 本市の**産業特性とこれまでの取組や考え方**を活かしていく。

社会的潮流

- ① **人口減少・少子高齢化の進展**
・ 労働力人口の変化
- ② **持続的な発展への社会的要請**
・ SDGsへの対応
・ カーボンニュートラル（脱炭素）の取組
- ③ **働き方の多様化**
・ ライフスタイルの多様化
・ ワークライフバランスの改善
- ④ **東京一極集中とコロナ禍による地方への人口流入**
・ 都市と地方の生産性格差
・ 若者人材の東京圏への流入
・ 地方への人口流入と関心の高まり
- ⑤ **自然災害の増加**
・ 地震、風水害等
- ⑥ **コロナ禍での変化**
・ 新たな生活様式への対応（非接触、非対面等）
・ デジタル化、DXの進展
・ 兼業・副業への関心の高まり
・ サプライチェーンの見直し
・ 感染症対応を含めたBCPの必要性
- ⑦ **本市を取り巻く環境の変化**
・ 中部横断自動車道の開通
・ 清水港の港湾機能の強化
・ 歴史博物館の開館、海洋文化施設の整備

上記課題等を踏まえての改善の方向性

【産業振興上の課題】

- ① **「目指す姿」の明示**
→ 様々な主体が同じイメージで目標を捉えることが必要であることから目指す姿を定める
- ② **ものづくり産業や起業、創業の推進を位置付け**
→ ものづくり産業や起業、創業の支援施策についての記載
- 【計画の推進に係る課題】
- ③ **PDCAによる適切な進捗管理**
→ 毎年度、予算等を踏まえた「実行計画」を策定
→ プランの全体的な方向性については「産業活性化懇話会」、中小企業支援に係る個別施策については「中小企業等応援会議」の場で随時意見聴取
- ④ **社会的潮流や変化の速さへの的確な対応**
→ コロナ禍等により、社会的な環境や価値観が大きく変化しており、それを踏まえる
→ プラン全体としては、取組の方向性を示し、個別施策については、各分野別計画に定める従来の方式を踏襲

第3次産業振興プランのイメージ（案）

今後検討する。